

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 4月 5日現在

機関番号：16101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21592805

研究課題名（和文） 母乳外来での助産ケアの質評価と質の保証に関する研究

研究課題名（英文） The study on quality evaluation of the midwifery care in the breastfeeding department and guarantee of the quality

## 研究代表者

葉久 真理（HAKU MARI）

徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授

研究者番号：50236444

研究成果の概要（和文）：本研究では、母乳外来での助産ケアの質を評価するために、助産師用と母親用の2側面から評価することで、ケア提供者とケアの受け手との評価の相違が明らかとなるよう作成した。また、母乳外来で必要とされるケアの質を保証するためのケア基準や体制整備のための基礎資料として、アウトカムモデルを示した。

研究成果の概要（英文）：We made a questionnaire to evaluate quality of the midwifery breastfeeding care. This questionnaire was made from 2 sides, for midwives and for Mothers. The care criteria and system of breastfeeding care were showed it in an outcome model.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：母乳外来、助産ケア、ケア評価、質の保証、母乳育児

## 1. 研究開始当初の背景

2014年までに達成すべき国民運動計画であるすこやか親子21では、“産後1ヵ月時点での母乳育児率を上昇させる”ことを達成すべき指標にあげ取り組んでいる。2005年度の乳幼児栄養調査（厚生労働省）では、

妊娠中の母親の95%が母乳育児を望んでいるとの報告が出され、母乳育児は多くの母親の願いであると言える。一方、産後1ヵ月時点で、母乳のみの育児率は1985年49.5%、1995年46.2%、2005年42.4%と減少傾向にあるが、人工乳のみの育児率も、1985年9.1%、

1995年7.9%、2005年5.1%と減少している。母親は、我が子に、少しでも母乳を与え、足りないと判断した場合に人工乳を足すという混合栄養の方法を取っているのである。我々は、母乳育児推進と母乳育児が困難となる母親への支援という視点から研究を積んで来た。母乳外来では、母乳育児を支援するケアとして、乳房ケアを行いながら母親の母乳不足感を払拭し、育児にギブアップしそうな気持ちを支えるケアが行われていた。しかし、母親が受けたケアの満足・充足感は、助産師個々の力量に影響されており、今後ますます助産師の活用が図られる助産の臨床において、出産退院後の継続ケアとしての母乳外来での助産ケアの質を評価する尺度や、ケアの質を保証するためのケア基準や体制整備の必要が示唆された。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、母乳外来での助産ケアの質を評価するための尺度を開発し、母乳外来で必要とされるケアの質を保証するためのケア基準や体制を明らかにすることである。本調査では、産褥退院後の母乳外来でのケアを研究対象としている。

## 3. 研究の方法

### 1) 質評価尺度の開発

助産師の母乳外来でのケア内容分析、対象者のニーズ分析の結果を基に、助産師用と母親用をそれぞれ4段階のリカート尺度として作成する。

### 2) 質を保証するためのケア基準や体制の指標の作成

(1) 4施設における母乳外来の実施状況とケア基準の聞き取り調査を行い、ケア基準・体制の類似点と相違点を抽出し、母乳外来の役割とケア範囲について母乳育児支援専門

家の意見を聞き関与する。

(2) (1)の結果をもとに、母乳育児支援のための構造・過程・結果の基準は、ドナベディアンが医療の質指標として提唱したStructure・Process・Outcomeの質の保証モデルを用いて明記する。

## 4. 研究成果

### 1) 母乳外来での助産ケアの質を評価するための尺度の作成

#### (1)助産師用

助産師自己評価用を4段階のリカート尺度として作成した。項目は、母子の健康診査や母乳育児を支援するケアと、乳房ケアを行いながら母親の母乳不足感を払拭し、育児にギブアップしそうな気持ちを支えるケアを中心概念に、4分類5項目に区分した。

#### ①自己点検（評価）の必要性を明記

自己点検（評価）とは、助産師が、助産ケア水準の向上に努めるとともに、母と子そして家族のしあわせのためにその社会的責任を果たせるように、自らの助産ケアの状況について自己点検し、その結果を踏まえ、研修、研鑽や改善を要する点など自己評価を行うことである。

自己評価は、1事例毎に実施し、評価の低い箇所の原因、要因を自己、他者分析する。助産師は、この自己評価表を活用し、助産師としての責務を果たせるよう研修、研鑽する。

#### ②調査表の項目（13項目）

[確実な問診、聴診、触診、視診技術]

母子の健康診査

母親の健康査定：産褥経過の身体的観察と診断、および心理的・社会的側面の診断について、総合的に判断できたかどうか。判断できたから判断できなかったまでの4段階で自己評価する。

以下の項目すべて、4段階評価で作成した。

児の健康査定：児の身体的観察と診断についての評価。

母乳育児継続の査定

乳房の状態査定、授乳姿勢と吸着の査定、母乳育児継続の査定判断（の自信）。

[ニーズの把握、母子、家族とのコミュニケーション能力]

母親との会話状況（良好な相互作用、助産師の姿勢）：場の雰囲気、対象者との関係性（励まし意欲を高める）、ニーズの把握。

[情報の選択的提供]

知識・技術の提供：情報の選択的提供、育児支援、意志決定への支援

[関連部署との連携能力]

報告、連絡、相談：（事例によっては）他の助産師や医師との相談状況。

(2)母親用

母親用は、自己評価用で検討した4分類5項目をベースに、助産師としての基本姿勢（倫理、プラクティスの保護、励ましや尊重、意志決定への支援など）の評価と、ケア内容をケアの満足・充足感の観点から検討した。

①意見調査（アンケート）の必要性を明記

母乳外来を受診して、本日の担当助産師のケアにどのような感想・意見・評価をお持ちでしょうか。助産師は、母乳で育てたいと願うお母さんと赤ちゃんのすこやかな成長を支援し、時には、母乳分泌の良くないお母さんの気持ちをくみ、赤ちゃんにとって望ましい栄養方法を判断し支援します。お母さんと赤ちゃんのニーズに応えるためには、日々研修、研鑽する努力が必要です。どのような研修、研鑽が必要であるのかを明らかにするために、ぜひ、ご意見を聞かせてください。

②調査表の項目（13項目）

総合評価として、本日の母乳外来受診は、4. 大変満足、3. 満足、2. やや不満、1. 不満と、受診料は、4. 診察に見合うものから、1. 診察

内容に比して高いと感じるまで調査。この2項目は、点数化せず、基本情報とする。

[確実な問診、聴診、触診、視診技術]

助産師の母乳育児（継続）に対する判断は適確であると感じましたか。適確であると感じたからまったく適確でなかったまでの4段階評価。

以下の項目すべて、4段階評価で作成した。

助産師から、今後の母乳育児についての見通しの説明を受けましたか。

助産師は、あなたの意見を聞いて方針をきめましたか。

今後の母乳育児に自信がもてましたか。

助産師は、あなたの健康状態を判断してくれましたか。

助産師は、赤ちゃんの健康状態を判断してくれましたか。

[ニーズの把握、母子、家族とのコミュニケーション能力]

母親との会話状況

十分な診察時間であったと思いますか。

助産師は、あなたの話をよく聞いてくれましたか。

あなたは、助産師と話して楽しい（安心した）と感じましたか。

[情報の選択的提供]

知識・技術の提供：情報の選択的提供

あなたの質問や疑問への回答、返答は納得できるものでしたか。

具体的な母乳育児方法を教えてくれましたか。

育児全般の困り事についての解決方法を具体的に教えてくれましたか。

育児への意欲は高まりましたか。

以上、助産師用と母親用を付き合わせる事で、ケア提供者とケアの受け手との相違も明らかとなるよう作成した。

今回は、調査項目の検討に時間を要したため、構成概念妥当性（探索的因子分析）の検討ができるだけのデータ数が確保できなかった。質問項目は、項目間の相関検定により20項目から13項目に削減された。今後、調査を継続し、母乳外来での助産ケアの質を評価するための尺度を完成させる。

## 2) 質を保証するためのケア基準・体制の指標

調査施設を含めた4施設における母乳外来の実施状況とケア基準の聞き取り調査を行い、ケア基準・体制の類似点と相違点を抽出した。また、母乳外来の役割とケア範囲について検討した。

### (1) ケア基準・体制の類似点と相違点を抽出

#### ① 母乳外来開設の動機

4施設とも、助産師の『母乳育児を支援したい』というケア提供者としての役割・責務を実践に反映するための取り組みであった。

#### ② ケアにあたる助産師の基準

母乳育児を支援するための助産師の能力査定は行われておらず、助産師としての経験年数（3～5年以上）や、有志によりグループ編成をし、運営されていた。母乳外来専属の助産師はいなかった。

#### ③ ケア基準

1施設のみ手順が明記されていた。他施設では、助産師経験10年以上のベテラン助産師が各自の判断により母乳外来が運営されていた。

#### ④ ケアの場合

母乳外来専用の部屋を設けている施設はなかった。

#### ⑤ 母親の満足度

1施設のみ調査であるが、調査対象者数46名中42名（91.3%）の人が、満足という評価であった。一方、4名（8.7%）の人は、「ゆっくり話を聞いてもらえなかった」、「また

来週きてくださいと言われて、どうすれば良いのかはつきりわからない」など、不満足感をもっていた。

#### ⑥ ケア料金

無料から500円、1,000円、3,300円まで、施設間での違いがあり、対象者のサービスと価格に対する価値観も様々であった。

### (2) 母乳外来の役割とケア範囲

母乳育児支援は、妊娠中から育児期を通して、母子とその家族を支援することである。母乳育児を継続するためには、母乳不足感や児の体重増加不良などへの専門的支援、育児全般の困り事相談や、子育てを通しての仲間づくりなど、母乳のみの対応では対象者のニーズには応えられない状況があきらかとなった。

母乳外来でのアウトカムは、下図のように示される。

Input	Process	Outcomes
母子 産後期にある母親と児 母乳育児希望あるいは希望 が強い 母乳育児継続に自信がない あるいは不安がある	Self-help or Social support による 母乳育児を中心とした育児生活 詳細: 母乳外来を介した相談 詳細: 母乳外来を介した相談	児の成長に合わせた母乳育児の 継続/変更法の選択 精神状態 母乳育児継続への自信 育児への意欲と喜び
助産師 母乳育児に 経験年数 母乳育児を推進している 専門的知識・技術・判断力 母乳育児の知識・技能 産後期の知識・技能 リスクへの対応/異常発生 時の対応能力 関係部署との連携能力 ケアを依頼し、承認、支持支 援するための包容力、忍耐力、 人間力 育児の現状・環境を理解し、 生活に密着した助言を行う ための生活力	母乳外来でのケア 母子の健康診査(健康な相談、肥 満、腹痛、発熱、嘔吐)、乳具調整、 母乳状況の査定 産後期のコミュニケーション スキルの把握、心身期・社会的期 の診断 相談・援助の提供/依頼の適切な 提供、正しい情報の提供、中心 性関心を与えている内容に対 する、より密着した有難い関係の 提供 詳細: 助産師自己評価	行事への意欲の増加 助産ケアの水準の向上/ケア内 容を依頼と助産師との距離から 客観的に評価し、その評価結果 を助産業務に反映
場 母乳外来	産科科の適正な設定 必要と人的資源や物的資源の責 任	母親のニーズに応えるための必 要と人的資源や物的資源を確保 病児自費の増加

#### ① 助産師に必要とされる能力

助産師に必要とされる知識、技術、態度は、母乳外来担当者達とのディスカッションから、「専門的知識・技術・判断力」、「リスクへの対応・異常発生時の対処能力」、「関係部署との連携能力」、「対象を理解し、承認・支持支援するための包容力・忍耐力・人間力」、「育児の現状・環境を理解し、生活に密着した助言を行うための生活力」が要求されることが明らかとなった。

#### ② ケア基準

母子の健康状態の診断は、医学的診断基準に準ずる（詳細は省略）。乳房の状態判断として注意を要する所見は、乳腺炎と乳癌であり、超音波診断装置を用いて、乳腺の状況を見ることも有用である。そのためには、乳腺所見を熟知しておくことと、対象者には、助産師の役割範囲として乳癌の診断はできないことを伝え、助産師が、正常逸脱所見と判断した場合は、すみやかに専門医に相談し対応する。乳腺炎については、社団法人日本助産師会の母乳育児支援ガイドライン検討委員会が 2010 年に作成した乳腺炎のフローチャートを活用する。

心理社会面の基準作成は、今後多くの事例分析により明らかにしていく必要がある。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 1 件）

①葉久真理、母乳外来における母乳育児支援の現状分析、第 41 回徳島母性衛生学会、2009.9.19、徳島県医師会館

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

葉久 真理 (HAKU MARI)

徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス  
研究部・教授

研究者番号：50236444

##### (2) 研究分担者

竹林 桂子 (TAKEBAYASHI KEIKO)

徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス  
研究部・講師

研究者番号：20263874

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：